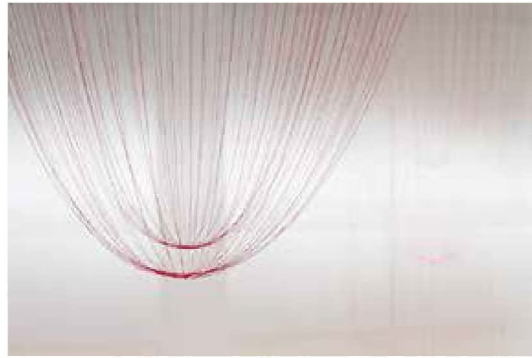


- 1 福森崇広《home》2013年 作家蔵
- 2 藤沢レオ《不在の存在IV》2015年 作家蔵 / photo 小牧寿里
- 3 久野志乃《さかさつらのふしぎ》2015年 作家蔵
- 4 坂東史樹《真昼の星々ある牛飼いの最後のために一》2012年 作家蔵



1



2

創造性
はどこから生まれ、
どこへ向かうのか

NITTAN ART FILE

インスピレーション

I N S P I R A T I O N



3



4

坂東史樹

Fumiki Bando

久野志乃

Shino Hisano

福森崇広

Takahiro Fukumori

藤沢レオ

Leo Fujisawa

2015年12月12日[土] — 2016年1月31日[日]

休館日: 月曜日(ただし、1月11日[月]は祝日開館)、1月12日[火]、年末年始(12/29[火]~1/3[日])

開館時間: 9:30-17:00 ※ 入場は16:30まで

観覧料: 一般 300(240)円 高校・大学生 200(140)円 小・中学生以下 無料

※ ()内は10名以上の団体料金 ※ 免除規定がありますのでお問合せください ※ 年間観覧券でもご覧いただけます
※ 常設展及び同時開催の中庭展示Vol.6 高臣大介(会期: ~12/27)も併せて観覧できます

主催: 苫小牧市美術博物館 後援: 苫小牧信用金庫 / 北海道新聞苫小牧支社 / 株式会社苫小牧民報社
/ 株式会社三星 / nittan 北海道新幹線 × nittan地域戦略会議

Tomakomai City Museum あみゆー

苫小牧市美術博物館

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel 0144-35-2550 / Fax 0144-34-0408

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

「NITTAN ART FILE」は、日胆(北海道胆振・日高地域)ゆかりのアーティストを紹介する企画展です。本展では「インスピレーション」をテーマに、既存の表現形式に捉われず、独自の表現を追求し続けている4人のアーティストをとりあげます。

芸術の作り手であるアーティストは、いかにして人や物といった存在あるいは自己と対峙し、思索を深めながら個々のイメージを作品へと昇華させていくのでしょうか。そうした“創造性”の根幹に関わる問いかけを探る本展では、創作の過程における天来の着想や靈感源などを意味する「インスピレーション」をキーワードに、苫小牧の都市景観や歴史、自然、事物などに着想を得た作品を展示します。

あわせて、それぞれのアーティストの作品制作の源泉となった資料や、写真、エスキス(下絵)等を紹介することにより、創作過程におけるイメージの受容や変容、交換等についても焦点を当てます。

関連イベント

藤沢レオ 公開制作

2015年12月5日[土]ー12月9日[水] 各日10:00-16:00
 ※ただし、12月7日[月]は休館日
 ※作家の都合により、時間帯によっては不在場合があります

アーティストトーク **要申込**

2015年12月12日 [土] 13:30-15:00
 講師:坂東史樹、久野志乃、福森崇広、藤沢レオ(本展出品作家)
 高臣大介(中庭展示Vol.6出品作家)
 受付期間:2015年11月10日[火]ー12月11日[金]

ギャラリートーク

2015年12月26日[土]、2016年1月23日[土]
 各日13:30-14:15

冬休み子どもオープンアトリエ

2016年1月5日[火]ー1月11日[月]
 ※詳細が決まり次第、市民広報誌、ウェブ等でお知らせします。

藤沢レオ ワークショップ
 「インスピレーションでインスタレーション」 **要申込**

2016年1月16日[土] 13:30-15:00
 定員:30名
 料金:50円(保険料)
 受付期間:2015年12月15日[火]ー2016年1月14日[木]

美術講座
 「現代アートにみるイメージの源泉と創造性」 **要申込**

2016年1月24日[日] 13:30-14:30
 講師:当館学芸員
 定員:30名
 受付期間:2016年1月5日[火]ー1月23日[土]

- *「料金」の表記のないイベントについてはすべて無料。ただし、展示室への入室を要するイベントについては別途観覧券(高校生以上)が必要となります。
- * **要申込** の表記のあるイベントはTel:0144-35-2550にて受付いたします。
- * イベントの詳細については変更する場合があります。詳細については、直接お問い合わせいただくか、当館HPをご覧ください。

次回開催展覧会

収蔵品展 ※同時開催
 「ハスカップー原野の恵みと描かれた風景」 / 「タマサイーつながりの美」
 会期:2016年2月13日[土]ー3月13日[日]

アクセス

- 公共交通
 JR苫小牧駅前バスターミナルより市内路線バス「21番」「23番」に乗り、「文化公園」で下車(所要時間約5分、料金210円)徒歩約5分
- 自家用車
 国道276号線と国道36号線の交差点(「苫小牧信用金庫中野支店」かど)を港方向へ曲がり交差点の次の信号を右折 ※文化公園内に駐車場あり(70台)



参加アーティスト ※ 作品図版はすべて参考作品、所蔵先はすべて作家蔵。

坂東史樹 **Fumiki Bando** | 美術作家



1963年浦河町生まれ、札幌市在住。自身の夢やその時々印象に残った情景を精巧な模型により復元し、意識下に潜在する内なるビジョン、あるいは幼年期に抱く幻想などを思わせる心象風景を投影した作品世界を創造。近年は、そうした固有の世界像をピンホールカメラで撮影し、写真特有のリアリティを備えた平面作品として制作発表している。主な展覧会に「FIX・MIX・MAX! 現代アートのフロントライン」(北海道立近代美術館, 2006年)、「樽前arty2011ー記憶の循環」(苫小牧市立樽前小学校, 2011年)、「札幌美術展ーパラレルワールド冒険譚」(札幌芸術の森美術館, 2012年)、「札幌国際芸術祭2014ー時の座標軸」(札幌大通地下ギャラリーー500m美術館, 2014年)などがある。



《真昼の星ターラスト・フライト》2014年
 ピンホールカメラによる模型写真・ミクストメディア

久野志乃 **Shino Hisano** | 画家



1978年様似町生まれ、札幌市在住。“他者の記憶”や書物などにインスピレーションを得ながら、透明感を感じさせる描写と“北方性”を感じさせる淡く柔和な色彩を織り交ぜた独自の作品を制作している。客観的な事象をイメージの源泉としながらも、画家自身のフィルターを通して、連想や仮定、比喩などが付与されるその図像は、一見すると非現実的な様相を呈しているが、同時に見る者の解釈の余地を残す豊かな物語性を有している。主な展覧会に「札幌美術展ーパラレルワールド冒険譚」(札幌芸術の森美術館, 2012年)、「久野志乃絵画展ー冬に降るゆめ」(様似町中央公民館ギャラリーー21, 2015年)などがある。



《氷のカーテン》(部分) 2013年
 油彩・キャンバス

福森崇広 **Takahiro Fukumori** | 映像作家



1980年苫小牧市生まれ、横浜市在住。“場所/時間/行為”の関係性を主要なテーマとして扱い、写真や映像、そして撮影という行為自体を媒体に実験的な表現活動を試みている。近年は、日常における変哲のないモチーフや風景を対象としながら、そこで繰り広げられる会話を収録のうえ字幕化、さらにそれとは別個の映像を組み合わせることで、イメージとテキストとの間に生じる“ずれ”を提示する作品を手がける。関東を拠点に活動する北海道出身の若手作家集団「Ezotic Troupe」のメンバーとして、「Ezotic ARTー蝦夷的藝術」(東京都現代美術館, 2013年)へ出品するなど、現在、高い注目を集める映像作家の一人。



《nest》(部分) 2012年
 TV・ビデオカメラ・プロジェクター・監視カメラ

藤沢レオ **Leo Fujisawa** | 彫刻家・金属工芸家



1974年虻田町(現洞爺湖町)生まれ、苫小牧市在住。“生と死の同一性”という自らの死生観を根拠としながら、日常において忘れられがちな事象をテーマとする作品を制作している。鉄をはじめ木や繊維布など多様な素材を扱うが、近年は、水系を展示空間の天井から吊り下げ、その自重がもたらす放物線によって不可視の重力や空気などを認識させるインスタレーションを展開。多彩な表現手法を試みながらも、一貫して“不可視かつ不可欠な存在”という本質的な要素を抽出する表現を追求する。主な展覧会に「バサージュ」(札幌芸術の森美術館野外スペース, 2008年)、「Sprouting Gardenー萌ゆる森」(札幌芸術の森美術館, 2014年)などがある。



《静かな日》(部分) 2013年
 ペニヤ板・松材

Tomakomai City Museum あみゆー
苫小牧市美術博物館
 〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7
 Tel 0144-35-2550 / Fax 0144-34-0408
 http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/